A man in a blue suit is sitting in a chair, seen from behind, with his hands clasped behind his head. He is looking towards a wall covered in various business and financial icons, including charts, graphs, and symbols like dollar signs and percentages. The background is a light, neutral color.

スポーツ×教育

～競技特性から得た思考～

agenda

- 本日の内容 -

● 自己紹介

● 現状の把握

● スポーツの重要性

● 置き換えの重要性

■ 牧谷 宇佐美

■ 1980年5月1日
旭川市生まれ

■ 1999年2月
旭川実業高校卒業

■ 2010年1月
北海道日本ハムファイターズ入社

■ 2019年1月
NPO法人北海道野球協議会

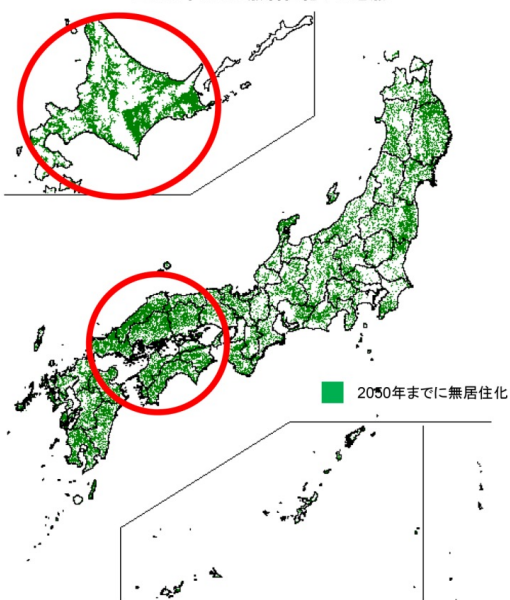
■ 2023年4月
一般社団法人設立

日本の現状の一部（人口推移）

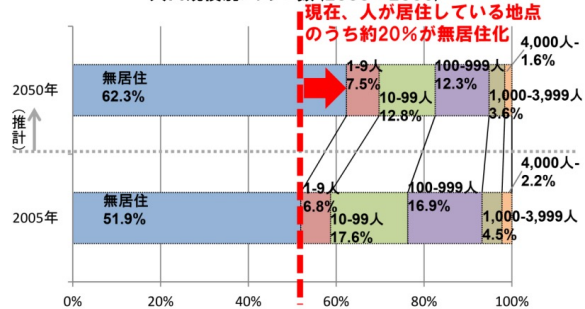
居住地・無居住地の推移

- 2050年までに、現在、人が居住している地域の約2割が無居住化。
- 現在、国土の約5割に人が居住しているが、約4割にまで減少。

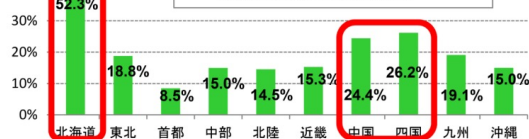
2050年までに無居住化する地点



人口規模別メッシュ数 (2005→2050)



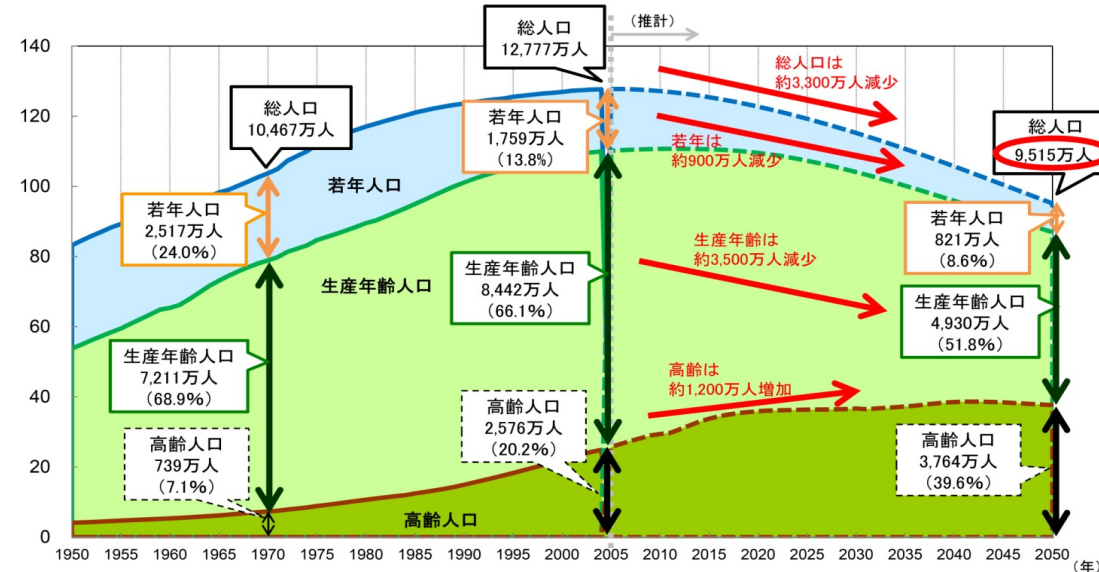
広域ブロック別無居住化割合
: 現在、人が居住している地点のうち今後無居住化する地点の割合



出典:「国土の長期展望」中間とりまとめ 概要(平成23年2月21日国土審議会政策部会長期展望委員会)

我が国における総人口の推移（年齢3区分別）

- 我が国の総人口は、2050年には9,515万人となり、約3,300万人（約25.5%）減少。
- 高齢人口が約1,200万人増加するのに対し、生産年齢人口は約3,500万人、若年人口は約900万人減少。その結果、高齢化率は約20%から約40%に上昇。



(注1) 「生産年齢人口」は15～64歳の者の人口、「高齢人口」は65歳以上の者の人口
(注2) ()内は若年人口、生産年齢人口、高齢人口がそれぞれ総人口のうち占める割合
(注3) 2005年は、年齢不詳の人口を各歳別に按分して含めている
(注4) 1950～1969、1971年は沖縄を含まない

出典:「国土の長期展望」中間とりまとめ 概要(平成23年2月21日国土審議会政策部会長期展望委員会)

日本の現状の一部（世界競争ランキング）

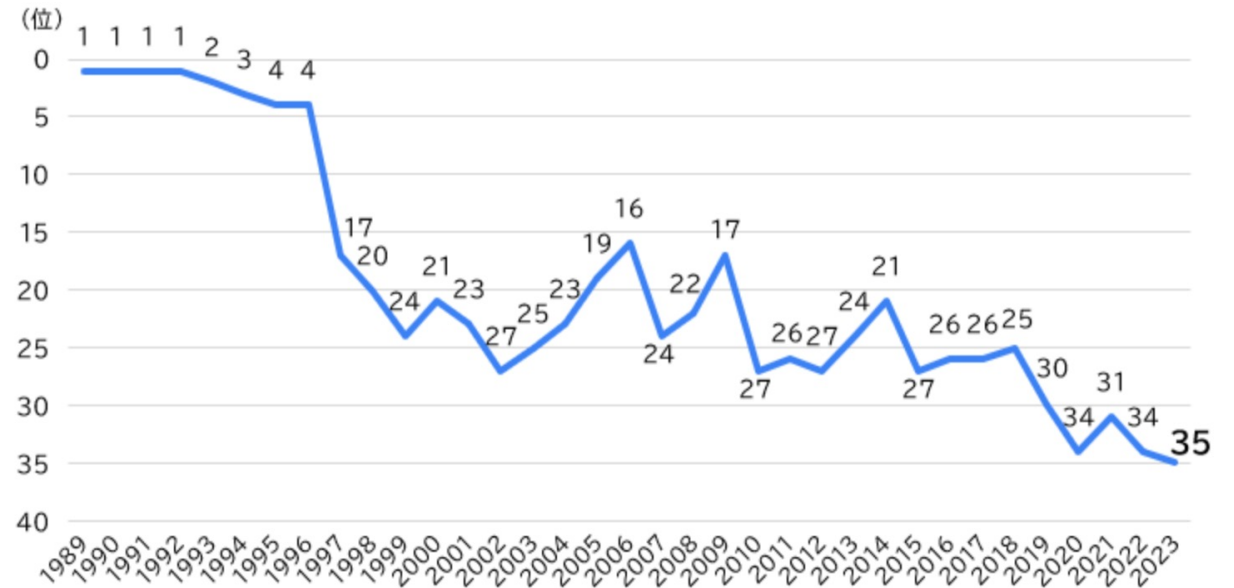
世界競争ランキング・総合順位

1 Denmark	23 Israel	45 Cyprus
2 Ireland	24 Austria	46 Hungary
3 Switzerland	25 Bahrain	47 Turkey
4 Singapore	26 Estonia	48 Romania
5 Netherlands	27 Malaysia	49 Greece
6 Taiwan, China	28 Korea Rep.	50 Croatia
7 Hong Kong SAR	29 United Kingdom	51 Latvia
8 Sweden	30 Thailand	52 Philippines
9 USA	31 New Zealand	53 Slovak Republic
10 UAE	32 Lithuania	54 Jordan
11 Finland	33 France	55 Peru
12 Qatar	34 Indonesia	56 Mexico
13 Belgium	35 Japan ←	57 Bulgaria
14 Norway	36 Spain	58 Colombia
15 Canada	37 Kazakhstan	59 Botswana
16 Iceland	38 Kuwait	60 Brazil
17 Saudi Arabia	39 Portugal	61 South Africa
18 Czech Republic	40 India	62 Mongolia
19 Australia	41 Italy	63 Argentina
20 Luxembourg	42 Slovenia	64 Venezuela
21 China	43 Poland	
22 Germany	44 Chile	

2023年の総合順位は、1位デンマー、2位アイルランド、3位スイス。

出典：IMD世界競争力センター

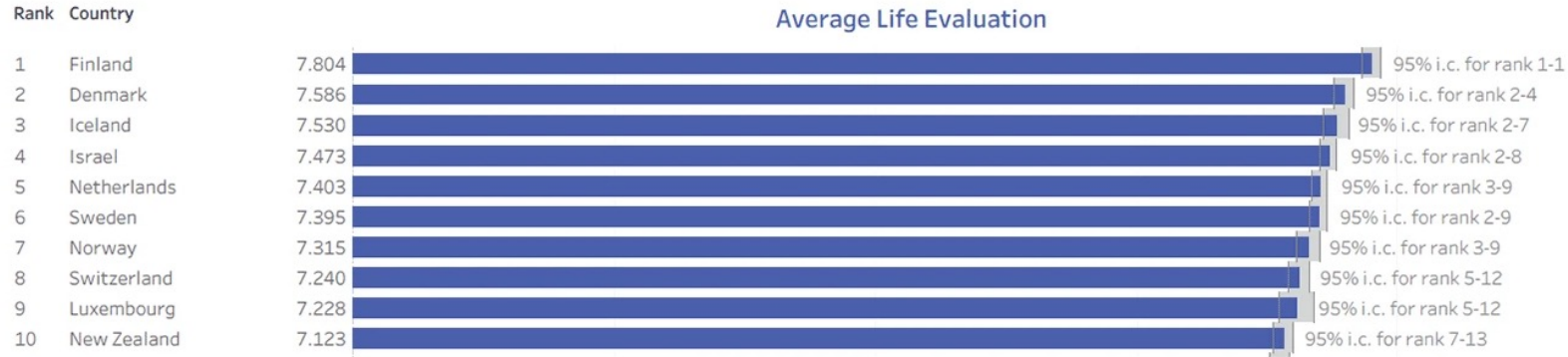
図表2 日本の総合順位の推移



出所：IMD「世界競争力年鑑」各年版より三菱総合研究所作成

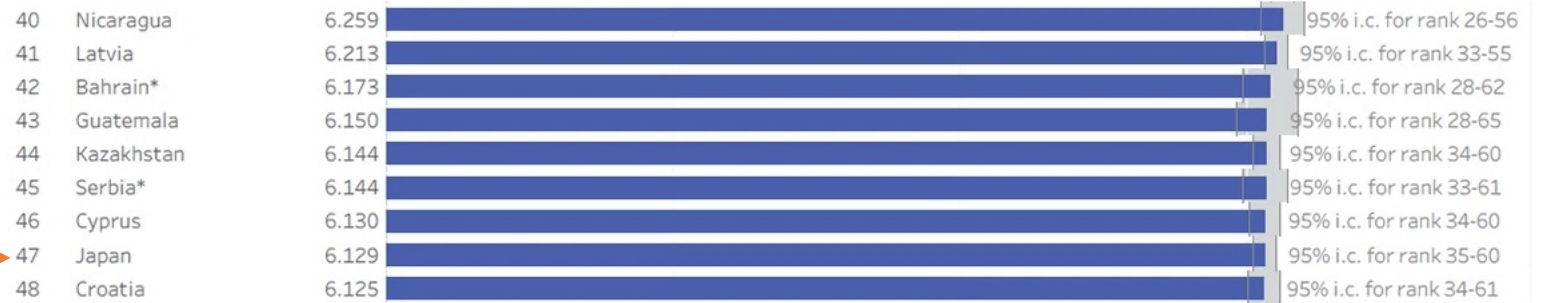
※日本はアジア圏14カ国中11位という順位となっている。。。

若者の現状の一部（幸福度ランキング）



幸福度ランキング上位の国々。グラフ右のグレーの部分と文字は、その国が含まれる可能性が高い幸福度スコアと順位の範囲（95%信頼区間）を指すという（出典：「World Happiness Report 2023」 p34）

G7の中では最下位・・・



高校生を対象にした自己肯定感についてのデータも諸外国と比較しても低い状況にある。

また、親に権威を認めるかという調査に関しても、著しく低い結果となっている。

つまり、現在の日本国は、家庭が空洞化し、学校教育にも歪な捻れが起こりつつあり、景気も停滞している状況下も相まって子どもから大人までの幸福感と自己肯定感が低下している原因とも考えられる。



文字の暴力

スマホの脅威

安易な情報（誤情報）

コミュニケーション能力の低下

世の中の現状の一部



仮に自分の近くに危険が迫っていても、このような状態では、それを察知することができなくなっている。
平和ボケともいうのか・・・

このように危機管理能力やコミュニケーション能力の低下なども含め、隣の人表情すら把握できていない状況は異常であるとする。

そもそも備わっている人間の「感度」が低下してきているのは否めない。

スポーツの重要性

表面的価値

体力
筋力

俊敏性
持久力

精神力
チーム
ワーク

上下関係
マナー

PDCA

内在価値

自己の最
大化

長所短
所理解
改善

目標設定
力
計画力

課題発見
課題解決

OODA

前提価値

楽しさ
感動

自己
実現

他者との関
わり

心身
相関

結果
勝敗

パフォーマンス

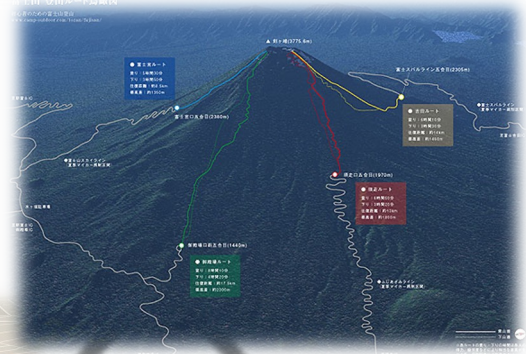
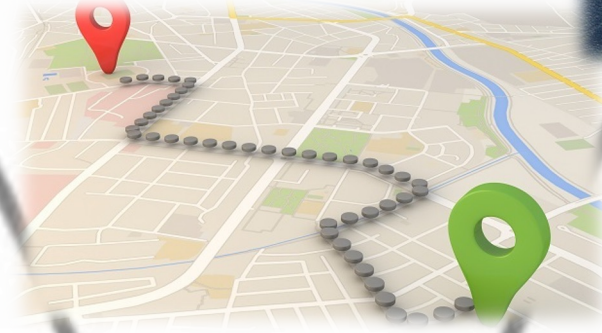
自分に合った勝ち方を探
す習慣が身に付く



レギュラー・控えなどが明
確であり、自身現在地を理
解できる



どの環境に身を置くことで
自身を成長させられるかを
知っている



	プラス要因	マイナス要因
内部環境	強み Strengths	弱み Weaknesses
外部環境	機会 Opportunities	脅威 Threats



10才

12才

14才

16才

18才

20才

22才

24才

26才～

身体が大きいだけ

体格に恵まれていよね

プロ野球選手？無理、無理

能力が抜けていた

あそこの家族は変わっているよね

家族のサポートがすごかった！

勘違いしている

自分を持っていたよね

無駄な努力してるよね

毎日走っていたもんね

もっと楽しまないとダメだよ

真剣に取り組んでいた

気持ちが優しいからプロ向きじゃない

人間性が重要なんだ

協調生がないよね

野球のことを24時間考えている



- ・無視、賞賛、避難
- ・練習量<戦略 (ID野球)
- ・歴史から紐付ける
- ・長時間のミーティング



- ・闘志むき出し (戦闘集団)
- ・心理戦 (人心掌握術)
- ・休日なし
- ・陣頭指揮



- ・常識外の練習量
- ・役割重視 (コーチなど)
- ・原理原則重視 (基本重視)
- ・守、破、離



- ・ ID野球の申し子
- ・ 論理的思考
- ・ 勝負への執着心（真剣さ）
- ・ 抜群の洞察力



- ・ 打てるショートの大第一人者
- ・ 感性の鋭さ
- ・ 気遣いの人（配慮・感謝）
- ・ 親分肌



- ・ 守備職人
- ・ 抜群のリーダーシップ
- ・ 規律（秩序）遵守
- ・ 勉強家（努力の天才）



ポイントは、『相手の欲を理解し把握すること』と『変化しようとしたタイミングでの声かけ』となる。

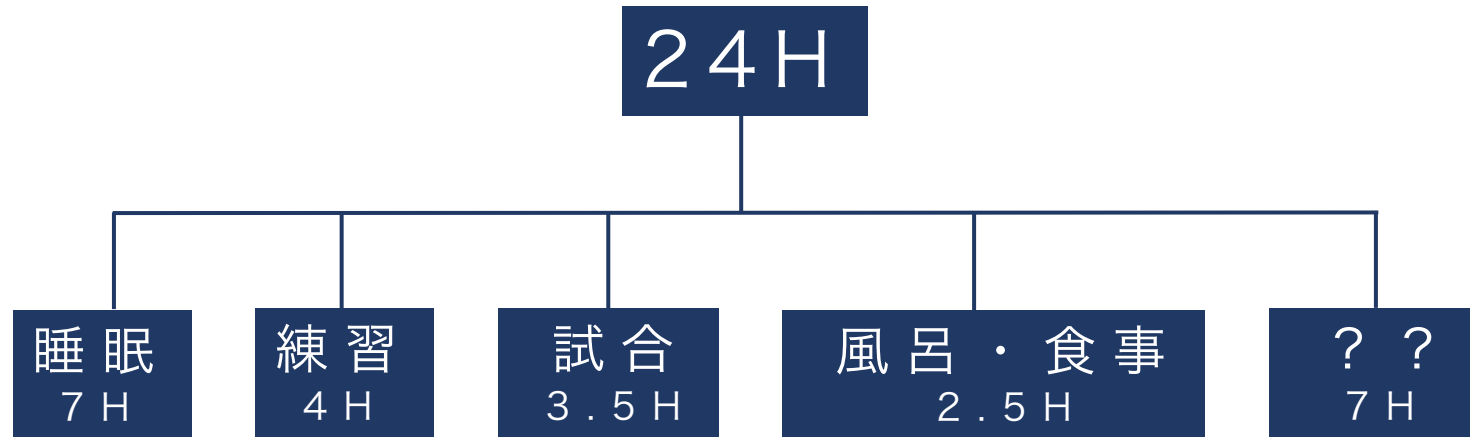
人間は、決定的な失敗体験か比較的な成功体験を基準として、自身をどの方向へ変化させるのか、またはこのままで良いのかを判断する。

指導者（先生）としては、『一時的に魚を与えるのではなく、魚の釣り方を教えること』が重要で、そこには、あらゆるリスクを取る（受け入れる）覚悟も必要となってくる。

現象に対してリアクションし過ぎるのではなく、『原因』を追究することが重要である。

時間の活用方法

～あらゆる人に平等に与えられたもの～



24時間を可視化してみることで、いかに余剰時間の活用方法を誤っているかが理解できる。
この余剰時間の使い方こそ、他者（ライバルなど）との“差”を埋めるポイントになるかを早い段階で認識したい。

『お前が本気で1流選手になりたいと考えているなら、3年間、毎日、他人の倍、野球のことを考える』
『俺は他者よりも才能がないことに気付いから、毎日、野球のことを考え、鍛錬することを欠かさなかった』

戦い方①

先頭集団ってきつい、、、

トップ選手の気配（息遣い）



Q.この状況（環境）から得られることは？

- ①ラクな方を選択しない（走るのをやめない）⇒一旦休憩をしないこと（その間にあっという間に置いていかれる）
- ②トップ（1流）の思考や考え方を感ずることができる
- ③苦しくても、その場所に居続けることの重要性を獲得できる⇒3年続けることにもつながる

これを理解し獲得することで、例えその競技で成功しなくても、他の世界でも十分通用する人材になる

戦い方②



VS



対応能力

意識

知恵・知識

才能

0

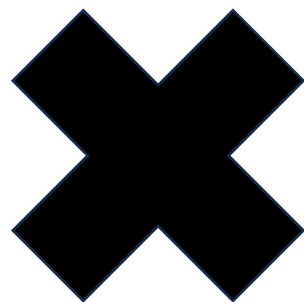
1

2

3

4

5



努力

0

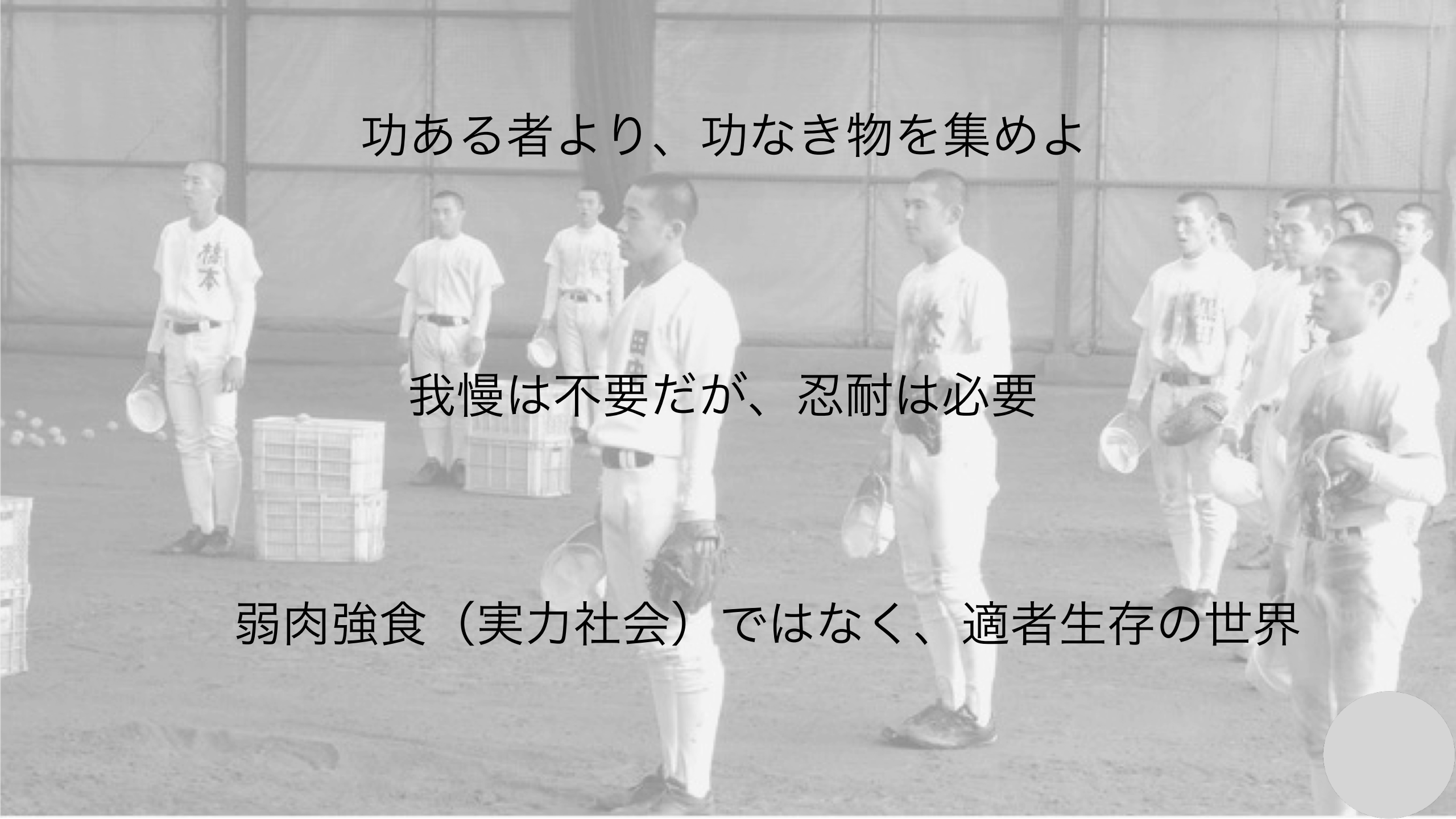
1

2

3

4

5



功ある者より、功なき物を集めよ

我慢は不要だが、忍耐は必要

弱肉強食（実力社会）ではなく、適者生存の世界